

2025年度学校評価報告書(香里ヌヴェール学院小学校)

学校目標	カトリックの宗教的な価値観に基づく教育をとおして、知的探求心と学力、そして優しさと勇気を育てる。
	学びの姿勢として、積極的かつ真剣に取り組む姿勢(熱中)、他者を認め合い助け合う姿勢(共感)、自分の目標達成を目指し努力する姿勢(挑戦)を重視し、どのような局面でも、自分の考えで正しい行動を選択し、実行できる真の優しさと勇気を兼ね備えた子どもを育てる。

対話や表現力を育てる探究授業	新しい社会を創造するために課題解決力を身につける探究活動の実践
英語教育	英語運用能力を基礎から段階的に培う週4時間の英語授業（SSC全学年） 複数教科の授業を英語で行うイマージョン教育の実施（SEC3年生以上）
ICT教育	高度情報化社会に対応する能力を育むICT教育

重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
教育充実 【探究（PBL）・英語教育・ICT教育】	1.対話や表現力を育てる探究授業	・各教科内におけるペア・グループによる探究型教育の成果があったか。 ・学年進行に合わせた探究の導入・実践ができたか。 ・児童の発言や興味を活かした授業を展開したか。 ・ノート、スライド、作品などの学習記録を残し、自己評価や相互評価ができたか。	・生活科及び総合的な学習の時間を中心とした探究と、教科学習での探究と位置づけ、日常の授業においても各単元の要所に探究的な学びを取り入れることを意識した。 ・各教科で探究的な学びを意識して取り組めるよう、「教科における探究学習」について、研究部のプロジェクトを中心に教材研究や実践を行った。教員研修において、その実践を報告、フィードバックを行った。 ・低学年においては、日常の対話を通したクリティカルな授業とリフレクションを繰り返し、探究学習の土壌となる授業づくりに努めている。また、高学年では、自分で課題をもち、探究し、まとめ、プレゼンテーションをする学習形態の実施によって、論理的思考力が高まるように努めた。 ・4年生では、キャリア教育を実施。外部講師や保護者から、「その方の職業」についての講演を聞き、その職業についての見識を深めるだけでなく、どういった学習や体験が今後役に立つかなど、「見た目のイメージ」や「BtoC目線」ではなく、「実際に働く人の声」により仕事理解を深めた。 ・5年SSCを対象に、外部講師と連携し、「社会とつながる」ことを目的とした実践を行った。これまで合宿で訪れた都道府県の魅力を再発見し、その地域の特産物を自分たちが仕入れ、参観日に保護者に購入していただく「チャリティー物産展」を実施し、売り上げは全額その地域振興として寄附した。
	2. 英語教育	(SEC) ・イマージョン授業の円滑な導入と実施ができたか。 ・複数教科を英語で学び、基礎学力を身につけることができたか。 (SSC) ・英語教育の充実を図ることができたか。 ・英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができたか。	・3年生以上でスーパーイングリッシュコース(SEC)体制を実施している。 ・SECは、外国人数員と日本人数員2名担任制を実施。 ・60%を超える授業を英語で行うイマージョン教育を実施している。(国語・社会・特活・宗教を除く) ・SECは、TOEFLPrimaryを全員受検し、英語運用能力を指標として確認。(SSCは希望者が受検)。特にSECは、英語運用能力が高いレベルに推移している様子が評価できた。 ・6年生ではオーストラリアパースへのホームステイ(希望者)を実施。6年間で身に付けた英語力を存分に発揮することができた。ホームステイに参加しなかった児童も、テンプル大学ジャパン京都キャンパスにて、教員や学生の方々によるスタディツアーを実施し、英語をとおして交流を図ることができた。
	3. ICT教育(オンライン学習)	・ICT機器(iPad/Chromebook)を学習場面で使用できたか。 ・授業の中でICTを活用して、効果的であったかを振り返り、授業の改善に活かすことができたか。	・SSCはChromebook、SECはiPadと、1人1台環境、全教室のBig Padを整え使用している。 ・全学年でロイロノートを使用し、児童の発達段階に合わせて、授業や諸活動に使用している。 ・これまでの低学年からのタイピング練習により、タイピングの速度も上がっている。高学年では、ほとんどの児童がブラインドタッチで入力できるようになっている。 ・全学年でCanvaを導入し全児童の使用が可能。ポスター作りや、プレゼンテーションなど、児童が用途に応じて使い分け、活用している。
	各種研修	・建学の精神、教育目標に基づき、実現を図る観点や方法を理解できたか。 ・各種研修を受け、授業改善・授業力向上に活かすことができたか。	①英語教育 ・SEC部会、英語部会におけるイマージョン教育や英語教育の研究と実践の共有している。 ②探究型教育 ・教科における探究学習の在り方の検討と実践。 ・本校の探究学習で目指すもの(伝達研修) ③宗教教育 ・神父様(月1回)と担任、専科(毎週)による宗教授業を実施している。 ・「先生一人ひとりが持っている宗教的価値観に改めて光を当てる」など(神父様による研修) ④初任者研修 ・初任者指導、初任者による模擬授業や校内研究授業だけでなく、実践交流の研修会等を積極的に実施している。 ⑤子どもが「熱中・共感・挑戦」し、「知的好奇心」から「深い学び」へつながる授業研究と校内研究授業を実施している。 ⑥西日本私立小学校連合会主催の研修会(春・秋)、その他自主的に様々な教育研修会に参加している。
教育環境の整備	安心・安全な環境の構築	・施設・設備の整備に努め、環境美化に努めたか。 ・不審者の侵入を未然に防止するため、施設の配置や防犯対策ができたか。 ・安全点検を定期的に行い危険箇所を見つけ整備することができたか。 ・夏場の教室の高温対策ができたか。	①設備の点検と改修 ・厨房、調理台、食器保管庫の修理 ・揚水配管敷設工事 ・D・E棟の電灯内部改修工事 ・消防設備点検時の不備改修 ・熱中症対策として遮光カーテン、扇風機、ウォータークーラーの設置 ・グランド大型遊具の修繕 ・体育館に敷設するシートの更新 ②防災・防犯設備 ・中学高等学校とともに、守衛体制の強化 ・小学校クロックルームの防犯カメラ修理 ③月に1回学校安全点検を実施し、修繕が必要な箇所は早期に対応している。 ④夏場の高温対策としてE棟屋上に散水栓を設置した。 ⑤定期的に巡回し、朽ちる等で強風や自然落下する可能性のある高木(主に桜)の枝や幹の剪定を実施している。

学校関係者評価
教師の指導について一部感情的な指導があったと子どもから聞いたので改善してほしい、髪型・持ち物・遅刻の扱い等を教員間で統一してほしい、問題行動には毅然と指導してほしい等の意見があった。指導方法については教員研修を行うこと、「生活のしおり」を改訂し周知徹底すると共に、当然のことながら問題行動には管理職も含め毅然とした指導に努めていく。教師の入れ替わりが多いとの意見もあったが、今後とも安定した雇用に努めていく。行事については運動会での座席とりのルールを徹底することや、徒競走でスタート時に「第〇組」というアナウンスを入れてほしいとの要望があった。これらについては改善策を検討する。給食をより改善して欲しいとの意見については業者と共に引き続き取り組んでいく。 一方で、教師の子どもへの温かい声かけや熱心な指導について、また前年度の保護者からの意見をもとに、制定品の靴・補助かばん・ランドセル・ボックスコート等が改良されたことに対して、感謝の言葉も寄せていただいた。